



生活者ネットワーク 国分寺市議会議員

マサーヨがゆく vol.4

TAKE FREE

日々の暮らしと政治はつながっています。これは、マサーヨこと小坂まさ代が、市政のことをより身近に感じていただけたらとの思いをこめて、仲間たちと作ったレポートです。ひとりひとりが自分らしく生きていける社会にしていけるために、あなたの声を聞かせてください。



Instagramもぜひご覧ください @masayokosaka

「子育てしやすいまちってどんなまち？」

「こどものつうやく」 深津高子さんとおはなししよう。あなたが考える「子育てしやすい」ってどんなことですか？それは子どもにとって「育ちやすい」と同じ？違う？持ち寄って話しましょう。

- 日時：3/30 (木) 14:00～16:00
- 場所：国分寺・生活者ネットワーク事務所

お気軽にご参加ください。お申し込みはこちらから



事務所に遊びにいらっしやいませんか？

マサーヨがきく

ご予約不要！



2023/3/26 (日)・4/4 (火) 10:00～17:00

おともなごどももどなたでもどうぞ。お気軽におしゃべりしにお立ち寄りください。自転車置き場あります。西国分寺駅徒歩1分。お待ちしております♪

お問い合わせフォーム <https://kokubunji.seikatsusha.me/contact/> 国分寺市泉町 3-33-16 西国分寺ハイツ 103 TEL: 042-328-1864

生活者ネットこくぶんじ No.165 小坂まさ代の活動を紹介します

発行日：2023年3月10日 発行：国分寺・生活者ネットワーク 発行責任者：田中由紀

〒185-0024 国分寺市泉町 3-33-16 西国分寺ハイツ 103 TEL: 042-328-1864

FAX: 042-328-1878 ☑ kokubunji@seikatsusha.net <https://kokubunji.seikatsusha.me>

小坂まさ代 かぞくの思い出エッセイ

「見上げた空は、今日も晴れ」

数年前のある秋の日、父方の祖母の十三回忌法要が営まれた。コロナ禍だったため、母と叔父叔母、私の兄弟だけで供養した。鎌倉末期に開基した寺の、享保年間に建てられたという本堂で、祖母の思い出に浸った。「晴子」という名にふさわしい、風もなく暖かな日だった。

同居をしていた祖父にとって初めての孫だった私は、大層可愛がられて育った。特に祖母には、私がいい大人になってからもお小遣いをもらったり、自堕落な生活を続け母から叱られているときに助け舟を出してもらったりと、たっぷり甘えさせてもらった。

何度か大きな病気をしたものの、90を過ぎてても身の回りのことは自分でこなし、俳句や詩吟を嗜み、まるで時計のように規則正しい毎日を送っていた祖母。私が出産のため里帰りしたときは、2週間ほどのんびりと一緒に過ごした。2008年の晩秋のこと。大正4年生まれ祖母は、親の決めた相手と結婚し5人の子どもをもうけた。連れ合いとなる祖父とは、結婚式の日に初めて会ったという。式の間は足袋の先だけしか目に入らなかったと話してくれた。

師走に入り私が長女を出産し、弟が携帯電話で赤ちゃんの写真を見せると「まあちゃん、よくがんばったね。よかったね」と言って、その晩も決まった時間に床についたそう。そして、二度と目を覚ますことはなく、ひ孫を抱いてもらうことは叶わなかった。大好きだった祖母との突然の別れと、同時に始まった新しい命との生活に、しばらくは心がついていけなかったことが、読経を聴きながらぼんやりと思い出され、涙が止まらなくなった。

その後、不器用ながらもそのときそのとき大切だと思った方を選んできたら、今こんなところにいる。

あの日生まれた娘は、50を過ぎてからこれまでやったことのない大きな仕事に取り組むことになった母に「ママを見てると、人はいくつになっても、出会いによって変わるんだと思うよ」と、言葉にして伝えてくれた。流れを受け入れ、力に変えていく生き方ができるようになったのは、祖母からの贈り物に違いない。

おばあちゃん、ありがとうね。

小坂まさ代 国分寺の暮らし

第一子の妊娠中、壁一面作り付けの本棚のある古いアパートと出会い、国分寺に転居。産後「本の好きな方なただもどうぞ」という看板を近所で見つけ、家庭文庫に通うようになる。同じ頃、市報で見つけた本多公民館の連続講座「幼い子のいる親のための教室」に参加。その後は子どもに育てられつつ、渋谷区の親子支援センターや児童館で働く傍ら、興味のおもむくまま地域活動に没頭。古書まどそら堂（ほろ酔い夜話（朗読会））、アフターケア相談所ゆずりは「憲法カフェ」、クルミドコーヒー「子どもてつがく」ほか顔の見える小さな集まりを数多く企画。PTA活動や、公園や保育園でお話し会も。「ぶんハビねっと」地域ライター。日本親子読書センター会員。国分寺市議会では、厚生文教委員会、新庁舎建設等特別委員会所属。趣味は散歩。 ●詳しいプロフィール <https://kosaka.seikatsusha.me/profile/>

生活者ネットワークの活動

生活者ネットワークは市民の手で市民のための政治を担う政治団体です。国分寺では約35年に渡り活動しています。子どものこと、仕事のこと、食べ物のこと、ゴミのこと…身近な問題をみんなで考え・活動・提案し解決してきました。現在、高瀬かおる（市議）、小坂まさ代（市議）、岩永やす代（都議）3人の議員とともに活動しています。調査や見学会、学習会など楽しい活動がたくさん！お気軽にご参加ください。



マサーヨ 語録 国分寺市議会議事録より

この春、2期目に挑戦するマサーヨ。

市議となり1年半の間の発言の中から印象的なものをピックアップ！ これからも暮らしの中から声を届けていきます。

子どもの声を公園づくりに

子どもたちにとって身近な遊び場である公園について、利用者である彼らの意見を取り入れることは非常に重要だと考え、今回、聞かせてくれた子どもたちの声をここで届けたいと思います。

(2022.12.1 本会議 一般質問より)



学校きゅうしょくについて

物価の高騰が大きく影響するものと懸念します。栄養士の皆さんには、限られた予算の中、様々な工夫を凝らして献立をつくっていただいておりますが、必要な食材費を補正するなど、質を落とさない学校給食の提供をお願いいたします。

(2022.3.22 本会議 令和4年度国分寺市一般会計予算案 賛成討論より)



子どものほけんりょうをへらして

(子どもに係る国民健康保険料等の均等割額の減額措置の導入)

子育て支援策として昭島市や東大和市では、2人目、3人目からの減免が行われている事例もございました。国分寺市でも子育て世帯の支援として、来年度、医療費の所得制限撤廃を実施するというのですが、こちらの面でも検討を要望します。

(2022.2.22 厚生文教委員会より)



子どもなんでもそらだんまどぐちを

安心して産み育てられるまちとして、妊娠期からの切れ目のない支援のためには、わかりやすく垣根の低い、何でも気軽に相談できる窓口が必要だと考えます。第二庁舎にできた福祉の総合相談窓口のような、子どもに関する相談をなんでも受け止め、寄り添い、適切な専門部署につなぐ「こども総合相談窓口」の設置が必要と考えます。

～中略～

今後の支援体制の拡充と、なによりもまず現在、悩みを抱え、子どもの預け先を確保し、あるいは幼い子を連れ、ようやく足を運んで相談に来られた方が安心できるような、少し元気になって、子どもとの暮らしにまた明日からがんばろうと思えるような、それぞれの窓口での対応を要望します。

(2023.2.26 本会議 施政方針に対する代表質問より)

